

# ヒロシマ・ナガサキ・ヒバクシャの思い受け継ぎ世界へ 世界青年のつどい成功めざす全国交流ニュース

[2006年6月9日 No.2]

発行: 第2回世界青年のつどい準備委員会 電話03 5842 6035 FAX03 5842 6033  
URL [http://www.geocities.jp/youth\\_against\\_nukes/index\\_jp.html](http://www.geocities.jp/youth_against_nukes/index_jp.html) Eメール [youth\\_against\\_nukes@yahoo.co.jp](mailto:youth_against_nukes@yahoo.co.jp)

**戦争の悲惨さわかった。絶対忘れちゃいけない。**

各地で被爆体験を聴く会が行われています。

## 集団訴訟原告を囲んで

**大阪**「私の病気を原爆によるものと認めてほしい」。厚生労働省の「却下」処分を不服として原爆症認定集団訴訟で5月12日に勝訴した原告のひとり、木村民子さんと裁判を支援してきた青年たちが語り合いました。木村さんの「結婚するときに被爆したことを話せず、裁判を起こしてはじめて主人に打ち明けた」という話や、命がけでたたかう決意を聴いて「あらためて核兵器のおそろしさを実感した」「国が被爆の実相をまともに見ようとしなはれないのはおかしい」「被爆者の願いを受け継いでいきたい」などの感想が出されました。(『民青新聞』6月12日付より)



「もう待てない すべての被爆者に勝利の春を！近畿原爆訴訟の勝利判決をめざすつどい」会場で原告を囲む青年たち(2006年3月11日、大阪)

## ピースツアー実行委員会準備会も立ち上げ

6月7日に4学園中4人でピースツアー実行委員会準備委員会を立ち上げました。まず学習として、「大阪の学生の平和活動」というテーマで学習し、それぞれツアーへの思いを出し合いました。そこでは、「被爆者の話しは、ぜひ聞いて欲しい」

「世界大会の体験が自分の専門にかなり繋がると思うから、ぜひ参加したい」、「現地に行くことで、当時のイメージがわく」「自分の思いを交流出来るからツアーの意義がある」などが出されました。次回は6月11日に第1回ピースツアー実行委員会を行い、ツアー参加経験のある人にはピースツアーへの思いを語ってもらいながら、ピースツアーの方向性の討議を予定しています。

## 被爆体験聴く会開催

**青森**「地元でもぜひ、被爆者の話を聞きたい」。昨年の原水爆禁止世界大会に参加した青年たちが中心になり、5月31日に青森市で“原爆被害者と語る会”がひらかれ、26人が参加しました。主催は昨年の原水爆禁止世界大会の参加者、医労連青年部、社保協平和委員会、民青同盟青森県委員会。原爆被害者である白取豊一さん(青森県原爆被害者の会会長)は、17歳で軍隊に志願し広島へ。「戦争中は、戦争がまちがっていると思わなかったし、軍隊では体罰が日常におこなわれていて、それが普通だった。広島では、死んだ人を次つぎ埋める作業をし、人間あつかいをしなかったことをいまは申し訳なく思っている」と語りました。

参加者からは「戦争の悲惨さがわかった。絶対忘れちゃいけない」「本当に恐ろしい。戦争はもうしちゃいけない」などの感想が出されました。(『民青新聞』6月12日付より)

各地の取組みを写真と一緒にお願いします。  
ご意見・ご感想もお待ちしてます。